

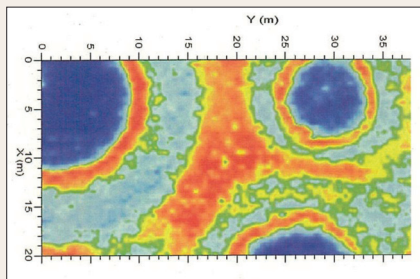
日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No.11

「地中レーダー探査の力」

これまで紹介してきた市内の遺跡は、火山灰や軽石に覆われ、深く埋もれていたために良い状態で残ってきたといえますが、発見のきっかけの多くは開発によるもので、普段の生活の中ではなくなか地中の状態(遺跡の存在)を知ることができないのが実状です。地中深く



地中レーダー探査で分かった軽石に埋もれた3墓の古墳(青い円が墳丘) 東田尻遺跡

埋もれているので、地表面に土器などが見られないことから、遺跡の存在が知られていない場所もあります。この課題を解決する方法として、地中レーダー探査があります。

地表から地中に向けて電磁波を送ると、それが地層や空洞や埋まっている物から反射して戻ってきます。その反射の変化を捉えることで、実際に掘る前に遺跡の情報のある程度把握し、破壊せずに調べることができるのです。地質や深さなど条件によってうまくいかない場合もあります。軽石が広く堆積する子持地区では昭和58年頃から導入され、黒井峯遺跡をはじめ、多くの場所で成果を上げてきました。例えば、上白井の宇津野・有瀬遺跡や中郷の東田尻遺跡などでは、大小さまざまな古墳が軽石の下にそっくり埋もれていることが分かっています。

最近では、探査精度の向上に加え、3次元解析も可能となり、さらなる技術の進歩が期待できそうです。

(市文化財保護課)